

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277102402		
法人名	有限会社あおば		
事業所名	うるのケアホームあおば		
所在地	浜松市北区三方原町70-10		
自己評価作成日	平成 30年 2月 4日	評価結果市町村受理日	平成 30年 3月 28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosp/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	平成 30年 2月 14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私たちは、おひとりおひとりのニーズや持てる力を発揮して暮らしを継続できるように取り組んでいます。受診や買い物にも一人で行きたいと言われる方、買い物やご家族との旅行や外泊など、それぞれの利用者様・ご家族のニーズに合わせて支援をしています。また、今年度は、利用者様が主体的に暮らせるケアを目標に掲げ介護に取り組んできた結果、利用者様が主体的に家事をされ、職員はそのアシスタントになると意識が変化したことで、利用者様が自信をもって生き生きと暮らすことができています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者のできることに着眼し、一人ひとりが役割をもって、3食の食事の準備を利用者が行い、職員はサポートをしている。入浴も職員が決めるのではなく希望の時間や日を決めて入られています。2日以上あかないように配慮されている。排泄に関しても、トイレにご自身で行かれる方が多く、自立されている。一人ひとりの方のアセスメントがしっかりとできており、自立への支援がなされている。ホーム内で、「きのこ」という名前の犬を飼っており、利用者がかわいがっており心の支えとなっている。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	努力しようと考えているが、忘れてしまったり、自己のケアと結びつけて考える時間が持てていないと感じている。2月からは、始業前に理念を唱和してから業務に入ることを決めた。	玄関、居室にも施設運営理念をかかげており、2月より、引継ぎ時に唱和を行い、職員が理念をもとにケアができるようにしている。施設運営理念となっているため、変更の検討は行っている。	変更の検討をしているので、施設運営理念から、ホーム独自の理念を作成し、職員のケアの指針にして、更により良いケアができるよう期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	納涼祭と忘年会では交流の機会が持てているが、日常的にはまだ少ない。	施設の納涼祭に近隣の老人会が盆踊りに来られたり、5月の施設祭りには子供会のラッパ隊が60名ほど来られ、利用者と一緒に近所の方も楽しんでいる。暮れには地区のお餅つきに利用者が参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェをしていたが、今はできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議をしていることは分かっているが、すべての職員が会議に参加していないことや職員会議等での報告がないため、内容を知らない。管理者や参加している職員は、頂戴した意見をサービス向上に生かそうと考えている。	運営推進会議には、近隣の自治会長、GHの管理、包括支援センター、家族等の参加がある。家族より施設に対して「外泊時に他の人の衣類が入っていた」との指摘があったり、率直な意見や質問等たくさん出されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括と連携をとっていることは、分かっている職員もいるが、実際のところは一定の職員(管理者レベル)がしていることなので、一般の介護職員には分かりにくいところである。	生活保護の方が2名入所されている事もあり、必要な方には成年後見人を付けるような相談等するため、行政、地域包括支援センターと連携や情報交換は密にされている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていないが、スピーチロックや言葉がきつと感じている職員が1/3位いる。	他施設で起きた虐待や拘束等の報道があった機会に、管理者は職員とディスカッションを行い、意識づけを行っている。スピーチロックに関しては、職員間で気づいた時にお互いで注意をするようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待をしないように努力したり、内部・外部の研修にでている。また、報道などの虐待事例でカンファレンスを行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に利用されている入居者様がいるため、勉強になる。反面、わからない職員も多い。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者やフロアリーダーが行なっている。その都度の質問に答えて説明を行なっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	平成29年度ははじめて「お客様満足度調査」を実施した。その結果から改善案を出し、取り組んでいる。平成30年5月に再度アンケートを実施することになっている。	「お客様満足度調査」を入所者家族全員に行い、その結果から家族の希望や思いを知ることができ、口腔ケアを確実に実施することやシーツ、枕カバーの交換を小まめに行うよう改善している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議は月1回の開催であるが、今年度は開催できない月もあった。	人事考課を実施しており、その中の個別面談で職員の意見を聞くようにしている。夜勤手当の改善や、ホームページの立ち上げ等、職員の意見を運営に生かせるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスを導入している。今年度から有期実習型訓練も導入した。人事考課を取り入れ、自己実現できるようにしているが、職員個々に伝わるようにしていかないといけない。個人差はあるが、向上心をもって仕事にチャレンジしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会は各自、自覚している。また、施設内研修でも学んでいるが、今年度はやや少なかった。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に参加しているが、同業者との交流は、何処の事業所も人員が充足しないと厳しい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自分なりにはやっているつもりである。入居によって家族より利用者様と長く過ごすことになるので、職員個々が利用者様のことを本当に分かろうとする気持ちを持てるようにしていくことが課題。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族としての役割は引き受けていただくが、困難事例で家族様に協力を求めるといふより、あくまでも私たちが介護のプロとして引き受けていきたい。入居後に発生した家族の要望に対しては積極的に応えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	通常は管理者が対応している。入居していない方が突然に尋ねてこられることがあるが、満床だと管理者に相談なく門前払いの職員もいた。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ほとんどの家族様は、ともに支えて行くように協力して頂けるが、一部にお任せの家族様もおられる。私たちが入居時に家族の役割について説明していくことも必要である。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	努めているが、十分ではない。職員からご家族に「なじみの場所」の聞き取りなどをして、より外出できるように支援していきたい。	お正月やお盆の自宅外泊。また自宅の近い方は週に1回、月に1回は家族と外出する。なじみの美容院へ行くなど関わりを持っている方もいる。家族支援が難しい方は職員が外食の機会などを設けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	数人ではうまくいっているが、ユニット全体での関係性は今ひとつである。1階と2階でそれぞれのユニットで関係性が調和するような何かはしていない。今後の課題。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	事例は少ないが支援はしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望に沿う努力はしているが、不十分な利用者様もいる。	担当の利用者居室を訪問した際や、一緒に散歩に出かけた時など思いを聞くように日頃から努力している。ある入所者から「今までかかっていた整形の先生に一人で受診したい」との希望が聞かれ、現在プランに取り入れている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様とコミュニケーションが出来る職員とそうでない職員がいるが、やれている職員が情報の共有化をはかり、カンファレンス等の共有できる場を増やしていきたい。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	把握しているつもり職員は多いが、実のところ、心身状態について理解することは、利用者様に関心を持つことであることか理解できていない職員もいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	すべての利用者様にプライマリーはついていないが、担当している利用者の把握ができていないことや関心が低いために、ケアプランに反映されていないこともある。	チームの中で意見が出され担当者中心にカンファレンスを行う場合とそうでない場合が職員の力量によりある。家族からの希望はプランの中に取り入れて作成している。モニタリングは6ヶ月に一度、必要な場合は随時変更をしている。同意は、家族が面会時等に説明してサインをいただいている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録はしているが、情報の共有については不十分だと感じる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホーム全体として真面目に取り組んでいるが、人手を要する場合には、すべてそのようには行かないし、費用・コスト面でも無理があることがある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源が何か、理解できていないと応える職員が多い。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院に受診している。又はかかりつけ医に受診している。また入居以前から抱えていた不調についても改善できるように支援している。	殆どの入所者が、近隣にあり必要時は連絡が取れる体制ができている協力医にて受診しているが、一人でかかりつけ医に受診され方もいる。入所後に水頭症が見つかり家族が協力医と相談し手術を行い歩行の改善が見られたケースもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が毎日出勤しているので、気になる点は報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に葉介護要約を作成し、情報提供をしている。入院中は、様子を確認し、退院について家族の意見を踏まえ、医療関係者と相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明し、意思の確認をしている。さらに重度化した場合には、家族と話し合い、方針を確認している。	入所時に家族の思いや本人の気持ちを聞いている。終末期に再度、医師、家族、ホーム側と話し合いを行い看取りに取り組んでいる。今年度は5名をホームで看取り、ホームのほぼ9割の方が終末ケアを希望している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	アニュアルはあるが、救命の訓練は最近はできていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練は出来ている。地域との関係はよくわからない。	防災訓練は年に2から3回行っている。水害訓練では1階の方を2階のユニットに避難する訓練を実施したり、砂のうを作ることも実際やってみている。	施設独自の訓練は行っているが、地域の防災訓練への参加や自施設への地域の協力体制が取れるような取り組みを希望する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	慣れから、つい気安い言葉掛けになってしまふことがある。もっと配慮が必要である。職員の心無い言葉で利用者を傷つけてしまふことがある。	トイレを利用されていた方に呼ばれた職員は「失礼します」と小声をかけ、他の利用者に聞こえないよう配慮してトイレ誘導をしている。職員間で気づいたときは、お互いに注意し合える関係性を構築している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	聴くようにしているが、職員が決めてしまっている場合もある。終末期医療や願いについて利用者様に積極的に意思の確認をしていきたい。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースを優先しているが、余裕がなくなると、できなくなる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った衣類を調節。モーニングケア、髭剃りや爪切りができていないことがある。身だしなみには気をつけているが、おしゃれはできていない。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様が主体となり、職員はアシスタントにまわっている。出来ているという回答が100%。	栄養士が1ヶ月分の献立をたてるが利用者が食べたいものに変更することもある。その場合は、前日に買い物に出かけ準備をする。節分には利用者の要望から恵方巻を皆でまいて美味しく食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分バランスを意識できている職員もいるが、そこまでできていない職員でも定期的に水分を提供する事で支援できている。ほぼ100%出来ていると回答。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員の意識があがり、取り組んでいる。ほぼすべての職員ができていると回答。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を確認してトイレでの排泄ができるように支援している。	基本的にはトイレでの排泄を行うようにしている。心配な方はパット、紙パンツを使っている方もいるが、布の下着を着用しトイレに自分で行っている人もいる。3名の方が誘導を必要としている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用して支援できている。水分強化や便秘薬の併用などを考慮して対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望で入浴したい時間に入れるように支援している。2日に1回は入れるようにしている。	利用者の希望に沿って一週間の間で入りたい日時を決め、夕方6時くらいまで入浴の支援をしている。本人用の好みのシャンプー、入浴剤などでそれぞれ対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	屋寝や日中の活動量にあわせて対応している。安心して眠れるように支援している。シーツや枕カバーなどを清潔にして気持ちよく眠れる支援はまだ不十分。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬中の薬について理解しているが、時として理解していないものもある。申し送りでの情報の共有が不足することもある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	すべての利用者様ではないが、散歩や買い物に出かける。ホール遊びや誕生会やレクレーションの機会がある。個別の支援をさらに充実していきたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お花見や観光、買い物、食事などの外出を支援している。また独りでの受診や外出を希望される方にはその方の能力と携帯電話やGPSの活用により支援している。また、ご家族様との旅行や自宅への泊まりなどもできている。	ほぼ毎日、施設周辺を散歩に出かけている。以前のかかりつけ医についてもケアプランにあげ外出している。携帯電話にて連絡を取りながら、職員と一緒に近くのスーパーや利用者の希望でパチンコや買い物にも出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段は職員が管理しているが、できる方は自分で支払いが出来るように支援している。利用者の能力に応じて金銭管理の支援を柔軟していく必要性について、一部の職員に理解されていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から「電話しないで欲しい」といわれない限りは支援している。携帯電話を持参されている方が増えているため、トラブルが最小に済むように勤めている。手紙は書くことが出来ない人の方が多い。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除は出来ているが、テーブルや椅子の配置は配慮ができていないときがある。テレビの音量や空調の調節に配慮している。季節の飾り付けが出来ている。	広い共有空間なので、ゆったりとしている。訪問日には近所の方からいただいたひな人形が飾ってあり季節感が感じられる。音楽を流していて、落ち着いた雰囲気がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士で過ごされたり、居室で過ごせている。利用者任せのこともあるので、工夫は必要である。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	定期的な布団干しやシーツ交換は出来るようになった。たんすの中に食べ物等がしまっていることがある。居室の片付けは意識的に機会を設けるようにしていく。	洋服、家具類は、馴染みのものを持参して使用している。折り紙や花、写真等が飾ってあり、居心地の良い部屋づくりがなされている。また入口には名札が掲げてあり、部屋の間違いを防止している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できることやわかることが生かせるような環境作りへの配慮が不足していると思う。		